



- 2022 各地の動き
- 2022 国の動き
- 2023 展望、決意表明!

2

- 2022 各地の動き
- 2022 国の動き
- 2023 展望、決意表明!

数字で振り返る!

3

- 2022 各地の動き

73!

4

ウォーカブル区域を設定した自治体数

- 2022 73 都市
- 2021 53 都市
- 2020 31 都市

目標は
2025で100都市!

5

- 2022 各地の動き

72!

6

ウォーカブル事業を実施している地区

● 2022 58 + 14 地区 (3.5億)

● 2021 44 + 12 地区 (2.0億)

● 2020 32 + 5 地区 (1.5億)

7

熊本県 熊本市

- 民間の再開発事業と一体となった利活用の自由度が高い広場や公園を整備し、明るく快適な空間を整備するとともに、歩行環境の整備等によりまちのシンボルである熊本城と周辺の商店街との回遊性を向上させ、コンセプトである「熊本城と庭つき「まちの大広間」」を具現化しつつ、「昼も夜も誰もが歩いて楽しめる魅力的な都市空間」を目指す。
- 観光客や市民の回遊・交流の場の中心となる熊本城前地区を対象にビジョンを策定し、魅力的な公共空間及び賑わいの創出を図る。



8

広島県 福山市

- 福山駅前デザイン会議や福山駅前アクション会議などの議論を踏まえた福山駅周辺デザイン計画を官民が連携して着実に進めていくことで、備後圏域の玄関口にふさわしい駅前の実現をめざす。
- 民間事業者等と行政が連携し、福山駅周辺と福山城、中央公園などを一体的に結ぶ空間整備を行い、訪れる人が歩いて楽しいと感じることの出来る歩行空間を形成するとともに、中心市街地の低未利用不動産や公共空間を活用したエリア価値の向上を図る。



9

兵庫県 神戸市

- 三宮駅周辺からウォーターフロント、旧居留地等への回遊性を向上させるため、都心とウォーターフロントをつなぐ道路における歩行者空間の整備や、沿道の公園を再整備を実施。
- 駅前の空間を人と公共交通優先の空間に転換するとともに、道路によって分断されている「えき」と周辺の「まち」とをつなぐため、段階的な道路空間の再配分を計画。



10

● 2022 各地の動き

336 !

11

ウォーカブル推進都市の数

● 2022 336 都市

● 2021 321 都市

● 2020 288 都市

● 2019 207 都市



12

● 2022 各地の動き

47!

13

マチミチ通信の配信数

- 2022 vol.72 ~ vol.118 **47通**
- 2021 vol.40 ~ vol.71 32通
- 2020 vol.17 ~ vol.40 13通

14

マチミチ会議(全国街路空間再構築・利活用推進会議)

問題意識

- 今後のまちづくりにおいては、住民のバリエーション空間をウォーカブルな人中心の空間に転換することにより、「居心地の良い歩道」になるまちづくりが重要。
- 特に、街路空間は我々の暮らしを身近なパブリック空間であり、より多様な使われ方、出会いや交流が生まれるような再構築・利活用を進めていくことが重要。

マチミチ会議の創設

① 全国の街路・まちづくり担当者が一堂に会し、新たな街路空間のあり方を議論する場として、**全国会議「マチミチ会議」**(全国街路空間再構築・利活用推進会議)を立ち上げること。

② 「マチミチ会議」を各地で開催し、自治体間での先進的な取組の共有、意見交換を推進。

● 加盟規模：地方公共団体(約340団体・1400名)を含め、約570団体・1800名

開催実績及び予定

【マチミチ全国会議】	【マチミチ地域別会議】
第1回：平成31年3月13日(金) 府中(約230名参加)	平成31年度：10/12(金)大阪市、10/26(金)さいたま市、
(特別編)：令和元 年5月20日(金) 府中(約200名参加)	12/13(金)北九州市
第2回：令和2年1月24日(金) 府中	令和元年度：7/26(金)仙台、10/18(金)岡崎市
第3回：令和3年3月4日(金) 府中	令和2年度：2/17(金)山形市
第4回：令和4年3月9日(金) 府中	令和3年度：11/6(金)山形市
	令和4年度：1/21(金) 府中

15

hqt-machi-michi@mlit.go.jp

／まずはご連絡を！／



16

● いっぱい現地行きました。

※2021も含みます・・・

17





愛知県名古屋市（久屋大通）



愛知県安城市



広島県竹原市



岡山県岡山市（ハレまち通り）

● 全国各地で取り組みが活発化！！

2022 全国の動きでおもったこと。

- まちへの愛着、ヒトへの思い
- 自分事としてとらえ、小さなことからまずやってみる
- 共通のビジョン
- 次の課題は「日常」